


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

令和3年 5月 19日

山北町議会議長 児玉 洋一 殿

受付番号	第6号	質問議員	番	富田陽子	
件名	生理用品の設置を				
要 旨					
<p>コロナ禍で浮き彫りになった女性の貧困、生理の貧困。 「生理の貧困」とは、十分に生理用品や生理に関する教育にアクセスできない状態にあることをさす。 民間団体のアンケートでは、若者の5人に1人が貧困で生理用品が買えないという結果がでていいる。最近では、防災備蓄品の更新で無料配布する自治体や神奈川県立の高等学校でも配布する動きがでてきた。 精神的、肉体的、経済的にも苦痛を強いられる生理。コロナ禍だから対策するのではなく、女性だけの問題と捉えず社会全体で根本的に生理を理解し向き合っていく必要があると考え質問する。</p> <p>(1) 生理用品は災害時の避難時の持ち出し品リストにも挙がっており自分で持ち出すことが基本だが、避難所生活が長引くことも考えられる。本庁舎の防災の備蓄品に生理用品が備えられていることは安心であるが、受け取る際などに担当職員には相談しにくいと考える。プライバシーを配慮し各避難所のトイレに配備してはどうか。また、生理用品の使用期限が過ぎて更新する際の活用をどう考えているか。</p> <p>(2) 学生は、生理に対する経験が浅く恥ずかしくて相談できなかったり、生理用品をトイレに持っていくのも気を使う。思春期はストレスなどで周期が整わず突然来たりする。だれもが安心して学べる環境をつくるため、プライバシーを守るためにも小中学校のトイレに生理用品を設置してはどうか。</p>					